

2024 年京都大学地球物理学教室同窓会(京大知球会)報告

2024 年 (令和 6 年) 2 月 17 日 (土) 12:30-19:00

理学研究科セミナーハウスとZOOMによるハイブリッド開催

[参加者: セミナーハウス 36名, ZOOM(申し込み) 36名, 懇親会 27名]

(YouTube配信: 同時視聴者数の最大は5, 平均は4)

I. 公開講演会

12:30-16:00

司会: 吉川 裕・家森 俊彦

オンライン配信担当: 重尚一・吉川 裕

<講演会の会長挨拶および各講演の概要は別掲>

12:30 開会挨拶 石川 裕彦 (会長)

【退職教員記念講演】

12:40-13:20 桜島から教えてもらったことーブルカノ式噴火偏重研究からの脱却

井口 正人 先生 (防災研究所火山活動研究センター) (←グアテマラからのZoom講演)

13:20-14:00 私の強震動地震学研究

岩田 知孝 先生 (防災研究所地震防災研究部門)

14:00-14:40 土砂災害予測基本図を用いた土砂災害発生位置の予測手法

齊藤 隆志 先生 (防災研究所地盤災害研究部門)

14:40-15:00 休憩

【2023 年度修士論文賞受賞者講演】

15:00-15:25 スパース正則化を用いた磁化構造解析手法の開発と実データへの適用

伊藤 良介 さん

15:25-15:50 ラングミュア乱流が海面加熱時の混合層に及ぼす影響の評価

吉川 浩一朗 さん

15:50-16:20 (集合写真撮影および休憩)

<謝辞>: 当講演会の案内を掲載していただいた京都大学およびKUON ホームページ担当者に感謝します。



Ⅱ. 知球会総会

16:20-16:50

司会：家森 俊彦

総会では、開会挨拶のあと、退職記念品および修士論文賞副賞の贈呈につづき、地球物理学教室の近況報告、同窓会活動に関する諸報告ならびに議事が行われた。

1. 開会挨拶 石川 裕彦 (会長)

昨年2月に今脇さんから知球会会長を引き継いだ、石川裕彦です。昭和54年3月学部卒、気象学出身です。なかなかすぐには馬力がかからず、ようやく最近になり会長らしい活動を開始したような状態です。今期(第11期)は、卒業生の会員情報捕捉の充実と名簿配布の再開を主な課題としています。個人情報との関係で、ここ数年、卒業生の把握がむずかしくなっています。昨春の卒業生に関しては、卒業後の動向捕捉が改善しましたが、まだ十分ではありません。また、コロナで対面開催がなかったこともあり、名簿配布もしばらく停止しています。名簿配布に関しては、住所などを除いた簡略情報を会員の皆様提供する方向で、掲載する項目

や配布の方法などを役員会で検討しているところです。本日はこのあたりの検討状況を、過去情報の整理も含めて、すこし詳しくご説明したいと思います。どうぞ、ご意見などお寄せいただきたいと思います。

それでは、ただいまより知球会総会を開会いたします。

2. 退職記念品、修士論文賞副賞の贈呈

この3月に防災研究所を退職される岩田 知孝 先生と齊藤 隆志 先生に石川会長から退職記念品を贈呈した。また、グアテマラ出張中の井口正人先生および事情により対面での参加ができなかった片尾浩先生には別途退職記念品が贈呈された。

次に、2023年度の修士論文賞を受賞された伊藤良介さん、吉川浩一朗さん、米田匡宏さん（当日は欠席）の各氏に副賞を贈呈した。

3. 教室の近況について

吉川 裕（教室主任）

令和5年度の教員については、協力講座において異動があった。地磁気世界資料解析センターにおいては、小谷翼助教が2023年8月1日付で着任された。地球熱学研究施設においては、宇津木充助教が2023年12月1日付で准教授に昇任された。防災研究所においては、2023年4月1日付で地盤災害研究部門の松四雄騎准教授と地震災害研究センターの西村卓也准教授がそれぞれ教授に、同年5月1日付で地震災害研究センターの深畑幸俊准教授が教授に昇任した。また、2023年4月1日付で琉球大学理学部の伊藤耕介助教が気象・水象災害部門の准教授として着任された。生存圏研究所においては、2023年10月1日付で兵庫県立大学環境人間学部の伊藤雅之准教授が大気圏環境情報分野の准教授として着任された。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、本学のコロナ感染対策もレベル0（コロナ禍前と同様）に戻ったことを受け、授業や野外演習、イベントも原則として対面で実施された。一方、コロナ禍で定着したオンラインツールの利便性も活かすこととなり、例えば阿蘇や別府の教員も参加する専攻会議や、遠方からの学生参加が期待される大学院入試説明会や進学相談会は、オンラインまたはオンライン併用（ハイブリッド）で実施した。”禍転じて・・・”の言葉があるように、便利な部分を取り入れつつ、2023年度は新しい定常状態に落ち着いた年度と言えるように感じられた。

大学院充足率については、地質学鉱物学教室も含めた地球惑星科学専攻全体として、修士課程充足率は86%、博士後期課程充足率は88%となった。2021年度に始まった京都大学による博士後期課程のための経済支援は、博士後期課程に進学を希望する学生の背中を押すことに繋がっており、2023年度においては地質学鉱物学教室と合わせて地球惑星科学専攻全体で21名の院生が受給している。また、理学研究科への寄付金をもとにしたファンド（銀楓ファンド）により、地球物理学分野の院生3名が研究費の支援を受けた。一方、修士や博士課程に進学後のキャリアをどのように築くのか、悩みを抱えている学生も多い。専攻で行ったキャリアパス開発支援セミナーでは、そのような院生のリアルな悩みや関心事を聞くことになった。今後、経済的な支援だけでなく、キャリアパスの構築についてもサポートの継続が必要であり、同窓会との連携が期待される部分である。

2023年度も多く教員や院生・学部生が各学会から受賞された。教員では、防災研究所の竹見哲也教授が日本気象学会賞を、理学研究科の坂崎貴俊准教授が日本気象学会正野賞を、それぞれ受賞した。地球物理学分野の院生・学部生の受賞件数は合計14件であった。

4. 諸報告

(1) 会員訃報報告

石川 裕彦 (会長)

前回総会での報告以降、以下の 4名 (敬称略) の会員がお亡くなりになったとの連絡があり、謹んでご冥福をお祈りした

恩藤忠典 2023年4月逝去 第5講座 (電磁気), 1958年 (昭和33年) 学部卒業

中村紗都子 2023年7月逝去 第5講座 (電磁気), 2011年 (平成23年) 学部卒業

福尾義昭 2023年11月逝去 第2講座 (海洋), 1952年 (昭和27年) 学部卒業

竹内文朗 2024年1月逝去 第4講座 (応用地物), 1971年 (昭和46年) 学部卒業

(2) 役員会報告

家森俊彦

2023年11月19日 (日) 15時~17時に役員会をオンラインで開催して今回の講演会・総会について相談し、準備を開始した。また会計状況報告と総会等の予算、会員動静と名簿管理等について検討した。その他、関東支部の活動等について報告があった。詳細は時間の関係で省略するが、後日 HP に掲載する総会報告の後に役員会報告を収録する。

(3) 名簿

戸田 孝

名簿登録者数 約 2100 名 (学年情報混乱による重複のため正確には不明)

そのうち 逝去されたと明確に判っている方 約 220 名

年齢的に存命とは思えないが明確でない方 約 70 名

メールアドレスが判っている方 約 710 名

メールアドレス不明だが

自宅住所情報が登録されている方 約 290 名

自宅住所不明だが勤務先等が判る方 約 150 名

メールでの連絡がつかなくなった方 (除逝去者) 約 20 名

メーリングリストへの登録件数 約 850 件 (1人で複数登録されている方が多数ある)

そのうち 誰のアドレスか全く判らないもの 約 70 件

・名簿配布に関する問題

従来、2年ごとに学年・氏名・出身講座・自宅住所・所属を記載した名簿を紙媒体で配布していた。手間と費用および遠隔参加者への対応などを考えると電子媒体での配布を考えるべきだが、個人情報保護上の問題が大きくなることについて検討が必要な状況である。会員一般に配布する名簿からは住所情報を排して学年・氏名・出身講座・所属機関の名称などのみの名簿とする方向で、役員会で検討を進めている。このため、コロナ禍で総会の対面開催ができなかった期間も含めて名簿配布が5年空いてしまうことになるが、御容赦いただきたい。

・新会員情報入手の問題

個人情報保護の副作用で新会員情報の入手が年々困難になっており、特に2019年以降は学部卒業生の氏名リストも入手できない。また、学部卒業でない大学院生 (特に博士後期編入者) や教職員の脱落が多数あることも判明している。年度替わりに教室から該当者にあてて、連絡先データの登録・更新を依頼する会長からのメールを送信してもらっているが、その回答率を高める方法について検討中である。

また、この問題の派生として、学年情報が混乱したり、同一人物が重複収録されている事例（主に修士の修了年と入学年を混乱している事例、特に入学から修了までが2年間でない人）が多数あることが判明しており、整理を進めている。

名簿未掲載メーリングリスト登録アドレスの確認作業は引き続き進めているので、遅滞なく回答いただくようお願いします。また、周囲で名簿未掲載の方に思い当たられましたら知球会本部（chikyukai@kugi.kyoto-u.ac.jp）へ連絡していただくようお願いください（個人情報取扱のルール上、本人からの申し出が必要です）。特に2017年以降は個人情報保護の副作用で卒業生の氏名リストが入手できずリスト自体に漏れがあります（特に2017、2019、2021、2022年学部卒の捕捉率が低い）また、学部卒でない方（特に博士後期編入者）も漏れやすい状況です。

既に名簿に掲載されている方についても、異動情報の速やかな集約にも御協力ください。

議事

(1) 会計報告

田口 聡

次の表に基づき2023年（1月1日～12月31日）の会計報告の後、次項の会計監査報告があり、異議なく承認された。

収入の部				
	2022年同窓会残高		315,784	
	同窓会会費 x 21人	¥3000 x 21	63,000	
	同窓会口座利子	4/1, 10/1	2	
		小計	378,786	

支出の部					
退職者記念品(タンブラー)	¥4200 x 1			4,200	
修士論文賞副賞(記念マグカップ)	¥1466 x 4			5,864	
岩崎氏への記念品(カットグラス)	¥7496 x 1			7,496	
講演会・総会アルバイト代	¥8000 x 2			16,000	
その他					
該当なし					
2023年同窓会残高			378,786	33,560	345,226

(2) 会計監査報告

田中良和

令和6年 2月15日12時30分から12時45分まで会計担当の田口教授立ち会いのもとに、収支の2023年 1月1日から12月31日までの期間について監査を行った。収支は適正におこなわれており、関係書類は全て正しく整理保管されていることを認めたので報告します。(急な事情により代理として田口聡会計担当が報告)

その他
なし

懇親会

17:00-19:00

司会：田口 聡



懇親会の様子

石川会長による挨拶のあと、入倉孝次郎会員による乾杯の発声で懇親会を開催した。各人の近況報告や徳田八郎衛会員がリードし、全員が輪になって琵琶湖周航の歌を合唱するなど、終始和やかで楽しい雰囲気の下、19時過ぎまで会話と飲食を楽しんだ。

——以下は、2023年11月開催の役員会の報告——

京大知球会・役員会（2023年11月）議事録

日時：2023年11月19日（日）15時-17時

場所：ZOOMによるウェブ会議

出席：石川、橋本、田口、家森、田中、谷、林、平原、吉川(賢)、吉川(裕)、戸田、今脇、入倉

欠席：齊藤、重、田部井、徳田、福田

報告

今年度教室主任の吉川裕教授より地球物理学教室関連の近況報告があった。

議事

1. 「講演会・総会・懇親会」の開催について

(a) 開催形式と日程

2024年2月17日(土)、理学研究科セミナーハウス

対面とZOOMのハイブリッド形式

講演会は、YouTubeにより一般公開する

[関連する意見] YouTubeで荒らしがあった。利用には注意が必要。

(b) 講演会の講師

活躍されている現職、本年度の退職者、新任教授、褒章・叙勲等の受章者、学会の受賞者、修士論文賞の受賞者など

今年度は、年度末退職予定者4名の講演とする

井口正人(防災研)、岩田知孝(防災研)、片尾 浩(防災研)、斎藤隆志(防災研)

[関連する議論] 講演者に関して、決まりなどは設けない。役員会の責任で決める

(c) 総会の議題

議事：会計報告・監査報告の承認、その他

(d) 懇親会

対面式でセミナーハウスで実施する。Zoom参加は実施しない。

(e) 開催案内(会員と一般市民に)

改訂版を作製し、会員にはメールで連絡。京大同窓会、京都新聞、その他の伝手(阿武山NPOなど)を通じて案内送付

2. 会計状況報告と総会等の予算について(会計担当)

今年度の会費納入状況を確認した

会費未納者への督促(正会員への勧誘)を進めることを確認した

記念品(退職者タンブラー)、修士副賞(マグカップ)費用の出費を確認した

3. 会員動静と名簿管理

(a) 総務より以下報告された

卒業後のメールアドレス等に関するアンケート：計63名から回答があった。

新規入会者：30名の新規入会(正会員)希望があった。ただし、そのうち10名は入会費3000円を未納のため、督促メールを送信する。

逝去者：中村紗都子(7月)

(b) 名簿管理の現状に関して

戸田氏より資料1の説明があった

石川会長より資料2の説明があった

(c) 名簿の配布について

石川会長より資料2の説明があった。以下のコンセンサスが得られた。

- ・従来版の印刷名簿ではなく、記載事項を絞った**簡略形式**を配布用に作製する
- ・簡略形式には、会員名（年度、出身講座、（現在所属））+[メールアドレス（不明の場合は住所）]
程度の情報を記載する（関東支部を運営するには住所（少なくとも都道府県）情報が必要との意見有）

配布方法に関しては以下の意見があり、コンセンサスを得るには至らなかった。Coreで検討して案を作成し、提案することにする。

- ・安易な拡散を防ぐためには印刷媒体が良い
- ・印刷媒体でも簡単にデジタル化できてしまうので、デジタルメディアが良い
- ・掲載情報を絞っているので、万が一情報が漏洩しても実害は少ない？

4. その他

・吉川（賢）氏より、11月18日に開催された関東支部例会総会・講演会（[Zoomによるネット開催](#)）の報告があった。

登録者数：42名、実際の参加者数：35名、ネット懇親会参加者数：20名